

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05668	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	北極海－大気－植生－凍土－河川系における水・物質循環の時空間変動	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	檜山 哲哉 (名古屋大学・宇宙地球環境研究所・教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、北ユーラシアをフィールドとして、水蒸気トレーサモデル、陸域生態系モデル、凍土モデル、河川モデルを統合した、国際的にも他に例を見ない意欲的な統合モデルを独自に開発・改良して、北極海海氷縮小による北ユーラシアの大気－陸域水循環の変動と植生や積雪との関係を解明しようとするものである。</p>	
<p>(意見等)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、陸域の現地観測はほとんど行われていないが、それ以外の研究については、おおむね順調に進展している。</p> <p>現在のところ、カウンターパートによる現地観測データやリモートセンシング等のデータを活用して、複数の研究成果が得られており、本研究課題を継続することで、北方地域の大気－陸域水循環が将来予測に貢献できる研究成果が期待できる。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症の影響によりフラックス観測システムの現地設置ができなかったことなど、研究の進展に一部遅れが認められる。したがって、今後は新型コロナウイルス感染症の状況について、幾つかのシナリオを考え、対応策を立てておくことが重要である。</p>	